

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-208913

(43)公開日 平成5年(1993)8月20日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 35/78	ADC C	7180-4C		
// (A 6 1 K 35/78				
31: 045		8413-4C		
37: 02		8314-4C		
33: 04		8314-4C		

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全 6 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平3-311927

(22)出願日 平成3年(1991)10月30日

(71)出願人 391060616

日本企業開発株式会社

東京都東久留米市滝山 6 丁目 2 番13号104

(72)発明者 山名成正

東京都東久留米市滝山 6 丁目 2 番13号104

日本企業開発株式会社内

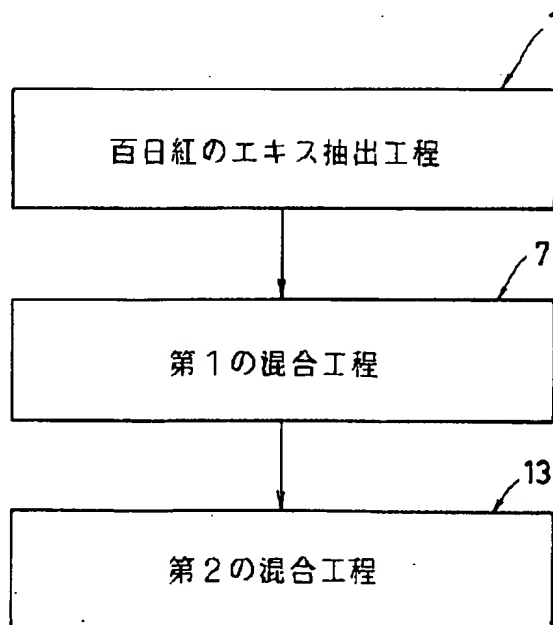
(74)代理人 弁理士 三浦 光康

(54)【発明の名称】 角質層の除去剤の製造方法および角質層の除去剤

(57)【要約】

【目的】 本発明は角質層に塗布するだけで軟化させて、軽石等で擦ることにより容易に除去することができる角質層の除去剤の製造方法および角質層の除去剤を提供する。

【構成】 沸騰させた浄水中に百日紅の基を所定量投入し、浄水が液状となるまで沸騰して百日紅のエキスを抽出する百日紅のエキス抽出工程と、この百日紅のエキス抽出工程で抽出されたほぼ常温の百日紅のエキ所に所定量のアルコール、所定量のカゼインおよび所定量のイオウを入れて混合した後、濾過する第1の混合固定と、この第1の混合工程で形成した第1の混合液に所定量の生石灰および所定量の酸化カリウムを混合させる第2の混合工程とで角質層の除去剤の製造方法を構成している。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 沸騰させた浄水中に百日紅の茎を所定量投入し、浄水が液状となるまで沸騰して百日紅のエキスを抽出する百日紅のエキス抽出工程と、この百日紅のエキス抽出工程で抽出されたほぼ常温の百日紅のエキスに所定量のアルコール、所定量のカゼインおよび所定量のイオウを入れて混合した後、逡過する第1の混合工程と、この第1の混合工程で形成した第1の混合液に所定量の生石灰および所定量の酸化カリウムを混合させる第2の混合工程とを含むことを特徴とする角質層の除去剤の製造方法。

【請求項2】 沸騰させた浄水中に百日紅の茎を、該浄水中に漬かるだけの量を投入し、浄水が液状となるまで沸騰して百日紅のエキスを抽出する百日紅のエキス抽出工程と、この百日紅のエキス抽出工程で抽出されたほぼ常温状態の百日紅に0.2～0.3パーセントのアルコール、0.1～0.15パーセントのカゼイン、0.5～0.6パーセントのイオウを入れて混合した後、逡過する第1の混合工程と、この第1の混合工程で形成した第1の混合液に前記百日紅のエキスに対し0.1～0.15パーセントの生石灰および0.3～0.45パーセントの酸化カリウムを混合させる第2の混合工程とを含むことを特徴とする角質層の除去剤の製造方法。

【請求項3】 沸騰させた浄水中に百日紅の茎を所定量投入し、浄水が液状となるまで沸騰して百日紅のエキスを抽出する百日紅のエキス抽出工程と、この百日紅のエキス抽出工程で抽出されたほぼ常温の百日紅のエキスに所定量のアルコール、所定量のカゼインおよび所定量のイオウを入れて混合する第1の混合工程と、この第1の混合工程で形成した第1の混合液に所定量の生石灰および所定量の酸化カリウムを混合した後、逡過する第2の混合工程とを含むことを特徴とする角質層の除去剤の製造方法。

【請求項4】 35～45パーセントの百日紅のエキスと、5～15パーセントのアルコールと、3～7パーセントのカゼインと、20～30パーセントのイオウと、10～20パーセントの生石灰と、10～20パーセントの硫化カリウムとからなる成分の角質層の除去剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は角質層を軟化させて除去しやすい状態にする、角質層の除去剤の製造方法および角質材の除去剤に関する。

【0002】

【従来の技術】足の裏等にできる角質層はヤスリを用いて除去したり、入浴時に軽石を用いて除去している。

【0003】

【本発明が解決しようとする課題】従来のヤスリや軽石を用いての角質層の除去は手数がかかるとともに、綺麗に除去することができないという欠点があった。

2

【0004】本発明は以上のような従来の欠点を鑑み、角質層に塗布して軽石等で擦ることにより、容易に短時間に角質層を綺麗に除去することができる角質層の除去剤の製造方法および角質材の除去剤を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明は沸騰させた浄水中に百日紅の茎を所定量投入し、浄水が液状となるまで沸騰して百日紅のエキスを抽出する百日紅のエキス抽出工程と、この百日紅のエキス抽出工程で抽出されたほぼ常温の百日紅のエキスに所定量のアルコール、所定量のカゼインおよび所定量のイオウを入れて混合した後、逡過する第1の混合工程と、この第1の混合工程で形成した第1の混合液に所定量の生石灰および所定量の酸化カリウムを混合させる第2の混合工程とで角質層の除去剤の製造方法を構成している。また、35～45パーセントの百日紅のエキスと、5～15パーセントのアルコールと、3～7パーセントのカゼインと、20～30パーセントのイオウと、10～20パーセントの生石灰と、10～20パーセントの硫化カリウムとからなる成分で角質層の除去剤を構成している。

【0006】

【作用】上記のように構成された角質層の除去剤の製造方法は、沸騰させた浄水中に百日紅の茎を投入して浄水が液状となるまで沸騰して百日紅のエキスを抽出する。百日紅のエキス、アルコール、カゼイン、イオウを混合して逡過する。この逡過した混合液に生石灰および酸化カリウム等を混合する。

【0007】

【本発明の実施例】以下、図面に示す実施例により、本発明を詳細に説明する。

【0008】図1ないし図4の本発明の第1の実施例において、1は百日紅のエキス抽出工程で、この百日紅のエキス抽出工程1は底の厚い釜2に浄水3を入れ沸騰させながら百日紅の茎を少しずつ釜2の中に投入する。この百日紅の茎4の釜2への投入は、投入した百日紅の茎4が柔らかくなった所で次の百日紅の茎4を投入する。釜2内にあらかじめ設定された量、例えば浄水2が2リッターにつき百日紅の茎4が3Kg投入されると、釜2に蓋5をして常に沸騰の状態を保って、ほぼ2時間程沸騰した後、蓋5を取り開放し、浄水2が液状になってきたら火を半分に落とし、液が澄んできたら百日紅の茎4を少しずつ取出し、火を止めることにより百日紅のエキス6の抽出が完了する。

【0009】7はほぼ常温の百日紅のエキス6に0.2～0.3パーセントのアルコール8、0.1～0.15パーセントのカゼイン9、0.5～0.6パーセントのイオウ10を入れて混合した後、逡過し、第1の混合液11を形成する第1の混合工程である。なお、逡過は細

3

かい浣布12を用いて2度浣過し、固形物を十分に浣過する。

【0010】13は前記百日紅のエキス6に対し0.1～0.15パーセントの生石灰14および0.3～0.45パーセントの酸化カリウム15を前記第1の混合液11と混合させる第2の混合工程で、この第2の混合工程13で角質層の除去剤16ができる。

【0011】なお、角質層の除去剤16の最適な各成分の混合割合は百日紅のエキスが40パーセント、アルコールが10パーセント、カゼインが5パーセント、イオウが25パーセント、生石灰が5パーセント、酸化カリウムが15パーセントである。

【0012】

【本発明の異なる実施例】次に図5ないし図7に示す本発明の異なる実施例につき説明する。なお、この本発明の異なる実施例の説明に当たって、前記本発明の第1の実施例と同一構成部分には同一符号を付して重複する説明を省略する。

【0013】図5ないし図7の本発明の第2の実施例において、前記本発明の第1の実施例と主に異なる点は、百日紅のエキス6にアルコール8、カゼイン9およびイオウ10を混合させる第1の混合工程7Aを行ない、第1の混合液11Aを形成した後、該第1の混合液11Aに生石灰14および酸化カリウム15を混合させる第2の混合工程13Aを行なった後、浣布12で浣過して角質層の除去剤16を形成した点で、このようにして角質層の除去剤の製造方法によって角質層の除去剤を製造しても同様な物を製造することができる。

【0014】

【本発明の効果】以上の説明から明らかなように、本発明にあっては次に列挙する効果が得られる。

【0015】(1) 沸騰させた浄水中に百日紅の茎を所定量投入し、浄水が液状となるまで沸騰して百日紅のエキスを抽出する百日紅のエキス抽出工程と、この百日紅

4

のエキス抽出工程で抽出されたほぼ常温の百日紅のエキスに所定量のアルコール、所定量のカゼインおよび所定量のイオウを入れて混合した後、浣過する第1の混合工程と、この第1の混合工程で形成した第1の混合液に所定量の生石灰および所定量の酸化カリウムを混合させる第2の混合工程とからなるので、特別な加工処理をしなくてもよいので、容易に製造することができる。

【0016】(2) 前記(1)によって、角質層を軟化させて軽石等で擦ることにより、容易に角質層を除去することができる角質層の除去剤を製造することができる。

【0017】(3) 前記(1)によって、百日紅のエキス、アルコール、カゼイン、イオウ、生石灰、硫化カリウムを用いて製造しているため、人体に悪影響を及ぼす物質が含まれておらず、安全に使用することができる。

【0018】(4) 請求項2、3、4も前記(1)～(3)と同様な効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施例を示す工程図。

【図2】百日紅のエキス抽出工程の説明図。

【図3】第1の混合工程の説明図。

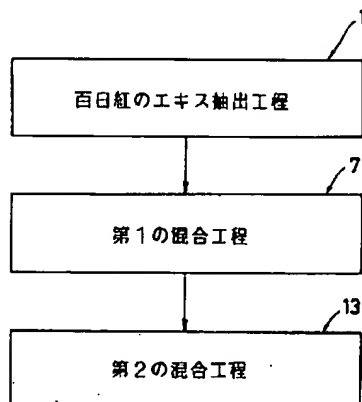
【図4】第2の混合工程の説明図。

【図5ないし図7】本発明の第2の実施例を示す工程図。

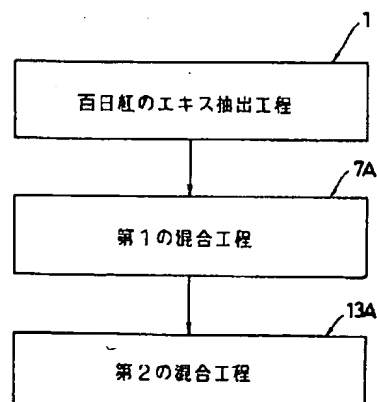
【符号の説明】

1：百日紅のエキス抽出工程、2：釜、3：浄水、4：百日紅の茎、5：蓋、6：百日紅のエキス、7、7A：第1の混合工程、8：アルコール、9：カゼイン、10：イオウ、11、11A：第2の混合工程、12：浣布、13、13A：第2の混合工程、14：生石灰、15：酸化カリウム、16：角質層の除去剤。

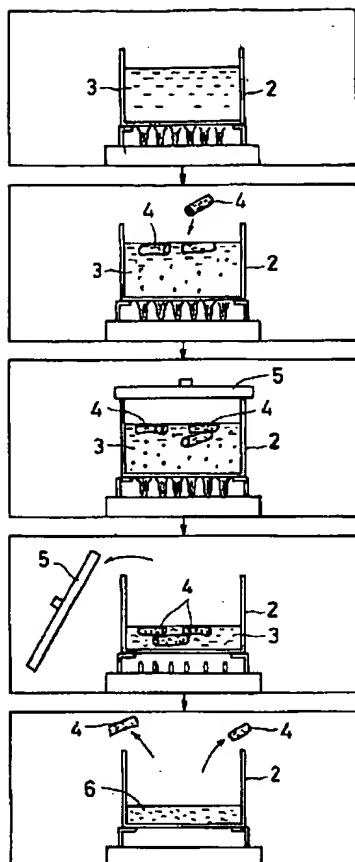
【図1】



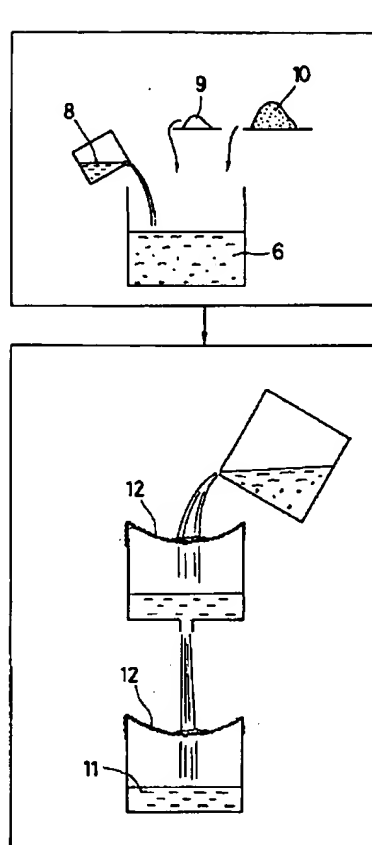
【図5】



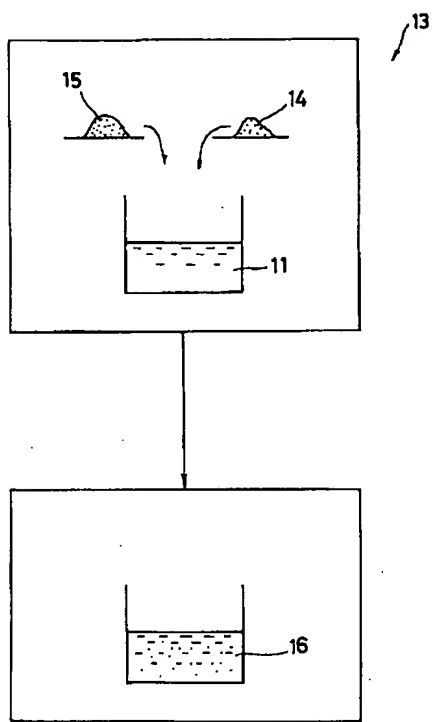
【図2】



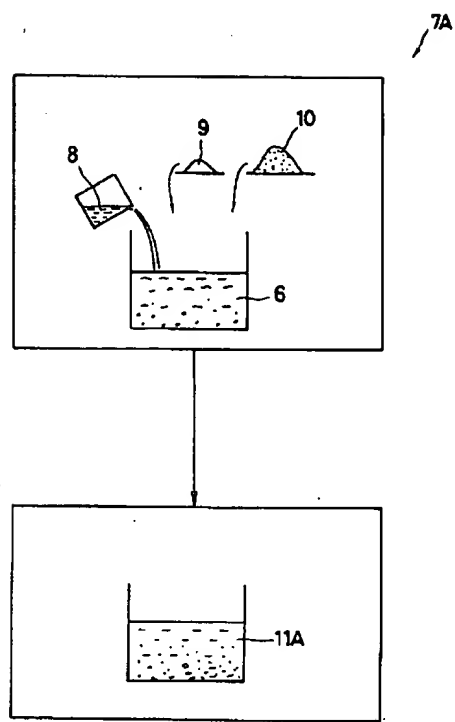
【図3】



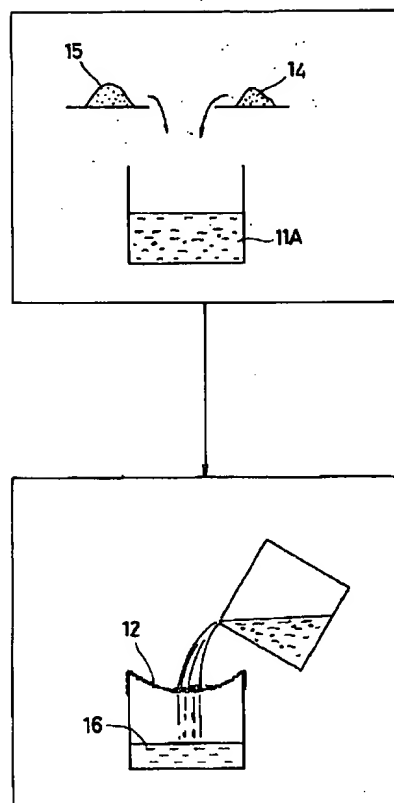
【図4】



【図6】



【図7】



フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁵

A 61 K 33:08

• 33:00)

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

8314-4C

8314-4C